



## Be creative !

### 〈本なら熟読 人には丁寧〉 —2023年度入学式校長式辞より抜粋

このような厳粛な式場で不謹慎かもしれませんが、私はテレビを観ることが好きです。自分自身がぼーっとして力を抜いてリラックスできるからだと思いますが、もう一つ、素敵な人や、心に残るその人の言葉に“偶然に”出会うことがどうも楽しみの一つとなっているようです。

「ワルイ子集まれ」をたまたま観ました。ちびっこ記者が今を活躍する大人に率直に質問をぶつけます。若き研究者として活躍をする落合洋一さん、「落合さんは“天才”って呼ばれていますが、」の質問に「そうなの？」ととぼけながらも、続く「“天才”ってどんな人だと思いますか。」の質問に、彼はこう答えました。「二種類あると思うんだよね。一つは、一つのことをやり通す人。もう一つは、人の思いつかないことをやる人。どちらも、自分の好きなことにどのくらいの時間を使えるかということが大事になってくるね。」「僕はね、この人が世の中にいてよかったって実感できることが大事だって思っている。そうした人が“天才”と呼ばれる一人の人だと思うし、自分もそうありたいと思っています。」

もう一人紹介します。誰もが知る松岡修造さん。中学校を卒業したら、韓国に留学し、タレントになりたいと考えている小学6年生の女の子が質問者です。うまくいかなかったら、自分の学歴が中卒になってしまうこと、不安で、不安で…と涙を流すその子は「どうしたらあきらめないことができるのか」と松岡さんに問います。「夢を“何となく”でおいかけないこと。自分の夢を白い紙に書く。そして、その周りに、その夢を実現するために自分のやりたいこと、自分がやらねばならないことを書き出す。なぜ、人はあきらめるのか、一度あきらめたら、それは習慣になってしまう。「あきらめない」ということをあきらめない。最後の決断は自分の心次第！ Believe in yourself！自分を信じる！」最後はこの人らしいフレーズでその答えは締めくくられました。

私が感心をしたのは、この二人の答えの内容というよりは、この二人が幼い子どもたちに対応する姿でした。決して子ども扱いしない、適当な言葉でごまかさない、今、自分が応え得る最大の思いでもって彼らが子どもに向かい合っていることでした。そこには相手の尊厳を尊重する姿勢がありました。「人間の尊厳を守る」これは私たちの学園の建学の精神の根幹をなすものです。ひとりひとりの人間が持つ尊厳。社会が複雑になり、それぞれの利害が際立ってくると、最初に傷つけられてしまうもののようにも思われます。

#### 鯨のあら炊きつつ心ととのふる 〈本なら熟読 人には丁寧〉

歌人島田修三の作品です。これもテレビを通して知った作品です。彼の生徒であり、現在絵本作家として活躍をしている堀川理万子さんが紹介してくれました。新しく君たちを迎え、改めて「丁寧であること」の大切さをかみしめています。ひとりひとりの人間の尊厳が重んじられ、丁寧に一日一日を送る。その積み重ねの中で、3年後、もう一つ君たちの未来が大きく花開くことを心から期待したいと思います。

共に歩みだす時間が今、始まりました。「本なら熟読 人には丁寧」私も、このフレーズを心の中で繰り返しながら、日々の取り組みを進めてまいります。共に頑張りましょう。

### 新入生代表の言葉—代表生徒2名の言葉を抜粋して紹介いたします。

#### 「雨垂れ石を穿つ」 山田康介さん(美浜町立河和中学校出身)

僕が中学生の頃から大切にしている言葉に「雨垂れ石を穿つ」というものがあります。これは「雨のしずくでも、長い間同じところに落ち続けると硬い石に穴をあけてしまうことがある」ということから、「どんなに小さな力で



も根気よく続けていけば、いつか大きな成果が得られる」ということを表しています。僕は小学生の頃から続けてきたサッカー部に入部します。サッカー部は「新しいピッチと歴史を紡ぐ」というスローガンの下、知多半島の誇りを背負い、全国区の部活になるため戦っています。そこでさっきの言葉を思い出し、練習中での技術の向上はもちろん、先生方、先輩方への礼儀や態度、また練習外での日々の行いも少しずつ学び、毎日を根気よく大切に過ごし、夢を叶えたいです。

### 「二つの目標を胸に」西川和香那さん(武豊町立武豊中学校)

私たちはこれから始まる高校生活に期待と不安で胸がいっぱいです。私は次の二つのことを目標にします。一つ目は吹奏楽部に入部し、自分の音楽の力を磨き、全国大会を目指すことです。そのためには顧問の先生や先輩方からのアドバイスをもとに、日々練習に励みます。苦しい時もあるかもしれませんが、そのような時でも自分を見失うことなく、仲間と支え合って乗り越えたいと思います。

二つ目は、学業と部活動を両立させることです。高校では授業内容が難しくなるため、部活動が終わってからの時間を有意義に有効に使い、授業の予習や復習に取り組みたいと思っています。また、わからないことや苦手なことをそのままにするのではなく、自分で調べたり、聞いたりして、その都度、解決をしていくことで苦手意識を取り除き、学習環境を自分で整えていきたいです。



### 姉妹校 Silay Institute(フィリピン)総長ザモラ先生からのメッセージです。

It is my honor to greet our honored guests, school officials, parents, and students, a pleasant and productive day.

Several years had passed since we have started this collaboration. As I render my short message in today's event, I could not help but be overwhelmed with happiness and gratefulness because, despite these past years of adversaries, we still find ways to stay in contact with each other. We would always be grateful to all the officers and personnel behind this bond between us, which only gets stronger through the years. Now that the air is clear again and the skies are once more opened, we are very much in synch in extending our invitation for you to visit us here in the Philippines.

Let me reiterate our wish to be your partner in education. Now that physical togetherness is again possible, we assure you that you can count on us in your quest for knowledge, as we count on you or our quest for such. Be it in research and development, cultural linkage or English language, we are always ready and willing to give you our service.

As I have mentioned the last time, we grow bigger in number every year, and we become more and more aggressive in reaching our goals for internalization. For such a goal, we believe that our partnership is a strong foundation. You are one of the inspirations that we have in reaching our goal! As I end, let me thank you once again for always considering us and making us a part of your activities like this one. So without much ado, let me close this message with the biggest and warmest congratulations for this year's spring opening.

Dr. Florecelita G. Zamora School Director, silay Institute

### 今月の言葉 「Heartのある学びを創り出す！」—影戸 誠先生(日本福祉大学客員教授)

Edu-port など発展途上国の教育支援を積極的に行っている影戸先生。2年前より本校の生徒たちが行っているカンボジアへの教育支援活動にも助言をもらっています。厳しい状況の中で学びを創り出している他国の先生や子どもたちを知っている影戸先生ゆえに、「Heartのある学びを！」の言葉には説得力があります。